

海外安全対策情報（平成27年7月～9月）

1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

（1）7月4日、エセブシ大統領は、6月26日に発生したスースにおける高級リゾートホテル襲撃事件を受け、チュニジア全土に非常事態宣言を発出しました（10月2日に解除）。

（2）7月14日午後5時頃、チュニス南郊外デュボスビルで列車2台が衝突し、乗客49名が負傷しました。事故原因は、信号システムの故障と見られています。

（3）7月15日夜、チュニス市中心部のハビブ・ブルギバ通りにある商業施設付近で何者かが爆竹を鳴らして叫びだしたため、それを銃撃と勘違いした施設内の人々がパニックとなり、一斉に逃げ出し負傷者が出ました。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

邦人が被害に遭遇した凶悪犯罪事件は認知していません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

（1）7月23日にビゼルト県セジュナンの複数の場所で行われたテロ組織掃討作戦で、テロリスト13名が検挙され、逃走した1人が銃撃戦により射殺されました。その際、カラシニコフ銃4丁、弾薬、大量の手製爆発物が押収されました。翌朝には、同県メンゼル・ブルギバ市のシテ・ナジェハ地区で、テロリストが潜伏する複数の家屋に治安部隊が突入し、テロリスト2名が検挙されました。そのうち1名が逃走し、治安部隊に向かって発砲した後、自分の妻と子供を人質にして立てこもりましたが、その後人質を解放し、母親の説得で自らも投降しました。この突入で、カラシニコフ銃5丁とステアー銃1丁が押収されました。

（2）8月19日夕刻、仕事に向かう途中の3名の警官が、スース県スース市内から7kmの距離にあるムサケン地区の交差点付近の橋で、大型二輪車に乗った二人組による銃撃を受け、3名のうち1名が殺害されました。

（3）8月23日、カスリン県ブーシュブカ地区において、密輸業者等の警戒パトロール中の税関職員4名が武装集団による待ち伏せ攻撃を受け、1名が死亡、2名が負傷しました。

（4）9月30日未明、タタウィン県ラマダで、治安当局が爆弾の仕掛けられた車両2台を阻止しました。2台は、リビアからチュニジアに侵入しようとしたテログループの車両3台のうち2台で、もう1台はリビア側に逃走しました。車両に仕掛けられた爆弾は、チュニジア軍により処理され、車内からはカラシニコフ銃、狩猟弾、大量の銃弾、通信機器、ISILのマークがついた書類等が押収されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

6 日本企業の安全に関する諸問題

日本企業を標的とした事例はありませんが、2015年3月、日本人観光客が犠牲となったバルドー国立博物館襲撃事件や、同年6月のスースにおける高級リゾートホテル襲撃事件といった外国人を直接のターゲットとした大規模なテロ事件が発生しています。こうした状況に鑑みれば、今後も外国人・外国権益を標的としたテロ・誘拐事件が発生する可能性は否定できませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要となります。

また、外務省ホームページ等で「スポット情報」、「危険情報」等を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いいたします。